

# 福井県立歴史博物館(1/2)

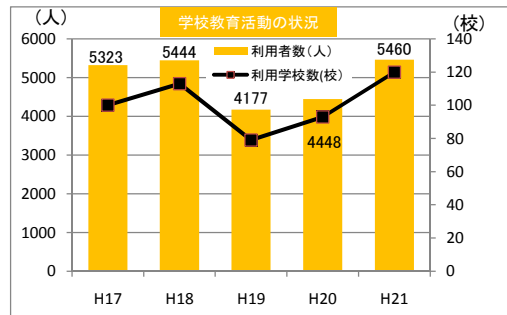
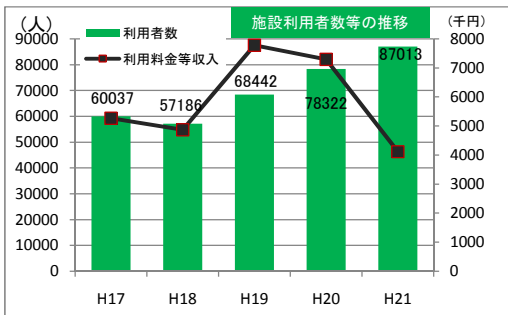
## 歴史博物館は 元気が出る博物館です！！

所在地	福井市大宮2丁目19-15		
設置年月日	昭和59年4月8日 (リニューアルオープン:平成15年3月12日)		
施設の種類	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	郷土の歴史、民俗等に関する資料の収集、保管および展示等を行い、もって県民の文化の向上に寄与することを目的とする。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延9,044㎡ 展示室(トピックゾーン、歴史ゾーン、オープン収蔵庫)、情報ライブラリー、講堂		
職員数	正職員9人、非常勤嘱託1人、アルバイト4人 計14人		

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	60,037	57,186	68,442	78,322	87,013

### 利用者負担(利用料金)等

入館料 (常設展)	一般・大学生	100円
	高校生以下	無料
	70歳以上	無料



**利用状況の推移**

平成17、18年度の入館者数は6万人前後で、いずれも対前年度比で減少でした。平成19年度は、企画展「昭和一人と車のオーダーズ」に多くの入館者があり、対前年度比で20%増加しました。平成20年度は、夏から秋にかけて開催した「昭和大博覧会」展や収蔵品展の積極的な開催により、対前年度比で14%の増加となりました。平成21年度も、春・秋の企画展や収蔵品展の積極的な開催および県外客の増加により、入館者数は対前年度比で11%増となりました。一方、夏の企画展について常設展入館料で観覧可能としたことなどにより、利用料金等収入は対前年度比で43%の減少となりました。また近年は、学校教育の一環としての博物館利用も増加しています。

### 施設の特徴

福井県の歴史や文化に関わる総合的な人文系歴史博物館として、資料の調査研究・収集・保管を行い、常設展示、企画展、さまざまな普及事業により、地域の歴史・文化についての親しみと理解を深めるための支援活動を行っています。

- ・収蔵資料は約15万点に達します。これらは県指定文化財3件を含み、地域の歴史・文化の基礎的な資料であるとともに、美術的、歴史的に高い価値を持つ資料も多数保管しています。

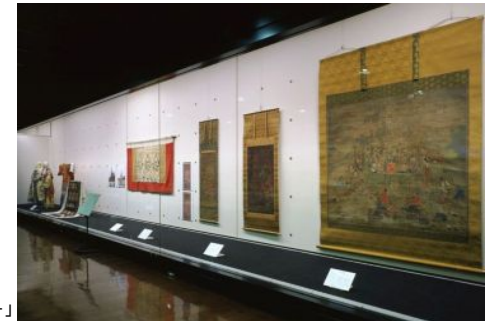
- ・常設展示は、旧石器時代から現代までのものづくりを中心にした福井県の歴史を紹介する「歴史ゾーン」と、昭和30～40年代のくらしを紹介する「昭和のくらし」コーナーで構成されています。

- ・県内の記録映画や当館で独自に企画した映像資料の提供は、当館の常設展示の特色で、「昭和のくらし」は親しみやすさで好評です。

- ・企画展は大規模なものを2回、やや小規模なものを2回程度毎年開催しています。このほか当館が保有する資料の公開、新規収蔵資料の紹介などコンパクトな企画も行っています。



常設展「昭和のくらし」コーナー



企画展「龍 - その多様な信仰と意匠 -」

### 21年度の特徴について

**【調査研究・資料の収集】**  
平成20年度から引き続き、昭和の写真資料や干支の造形物の調査とデータ整理を行っています。資料の収集は、歴史ゾーン関連資料として、江戸前期の絵馬の復元複製や16世紀にヨーロッパで出版された日本地図などを購入しました。また、当館の特色である「昭和のくらし」コーナー関連資料として、昭和30年代の軽自動車や昭和30～40年代の生活雑誌等を購入しました。その他、県指定文化財の仏像の寄託を受け、22年3月末に一般公開を行いました。

**【展示・普及活動】**  
平成21年度は企画展を次のとおり開催しました。なお企画展では図録などを発行するとともに展示説明会、講演会、ワークショップ、見学会なども併せて開催しました。

- 1) 第60回全国植樹祭関連イベント「エコロジースタイル 人と木の物語」(4/25～6/7)では、エコロジーの視点から木を使う意味を考え、木が持つ優れた特性や魅力を紹介しました。
- 2) 夏休み自由研究応援企画「調べにおいて！木はともだち」(7/25～8/31)では、春の企画展の展示内容も一部活用し、木と人の暮らしに関する資料を展示しました。体験コーナーを充実させワークシートや図書コーナー等も用意して、子どもたちが楽しく学べる場としました。
- 3) 秋の特別展「龍 - その多様な信仰と意匠 -」(10/17～11/23)では、西洋のドラゴンと東洋の龍の比較、日本への伝来、日本国内での信仰との関わりなどについて、重要文化財の絵画や文書、染織品等の多彩な資料を通じて紹介しました。
- 4) 新春特別企画「十二支ワールド トラ、参上！」(1/3～2/28)では、平成22年の干支・寅を中心に、十二支の動物について全国の郷土玩具や西洋の造形品で紹介しました。

上記のほか、以下のようなミニ企画を行いました。

- ① 館蔵資料展「柄鏡」(6/13～7/28)
- ② 若狭移動展「昭和のくらし in WAKASA」(8/7～8/23)
- ③ 秋の収蔵品展「汽車の旅 - 駅弁の掛け紙と汽車土瓶」(9/10～10/12)
- ④ 館蔵資料展「木の職人の道具」(2/6～3/22)

### 事業実績

# 福井県立歴史博物館(2/2)

## 行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	92,536	26.5%	94.2%
	退職給与引当金繰入	14,750	4.2%	14899.0%
	賞与引当金繰入	4,583	1.3%	100.0%
	計	111,869	32.0%	108.7%
物にかかるコスト	物件費	112,709	32.3%	86.2%
	維持補修費	19,321	5.5%	198.3%
	減価償却費	96,133	27.6%	100.0%
	計	228,163	65.4%	96.4%
その他	支払利息	6,880	2.0%	92.6%
	その他	1,860	0.6%	86.1%
	計	8,740	2.6%	91.2%
合計	348,772	100.0%	99.9%	
収入	利用料等収入	3,502	1.0%	52.8%
	一般財源	345,270	99.0%	100.8%

## バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

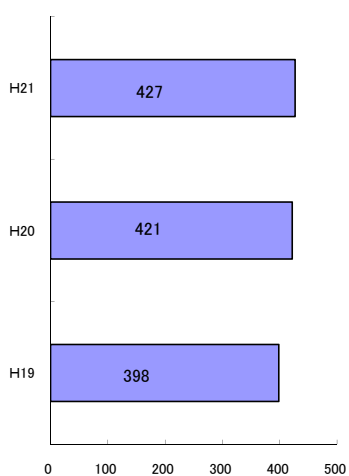
借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	4,193,418	97.8%	固定負債	713,971	92.2%
うち土地	736,500	100.0%	うち起債残高	659,462	91.7%
うち建物・設備	2,684,516	96.1%	うち退職手当引当金	54,509	98.5%
うち収蔵品・資料	772,402	103.0%			
投資等	0	-	流動負債	71,155	98.5%
流動資産	0	-	純資産	3,408,292	99.1%
計	4,193,418	97.8%	計	4,193,418	97.8%

## 主な指標 (単位:%、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	5,180	5,276	98.2%
県民1人あたり将来負担額	882	953	92.6%
世代間負担率	81.3	80.3	101.3%

バランスシート、行政コスト計算書の特徴	<p>行政コスト計算書の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物件費について経費の削減に努め、対前年度比で13.8%減少しました。</li> <li>・建物が築26年を経過しているため、修繕箇所が多くなっており、維持補修費が前年度より増加しました。</li> <li>・平成14年度の施設の一部リニューアルに伴い、10億円の起債借入がありますが、それに係る支払利息は対前年度比で7.4%減少しました。</li> <li>・利用料等収入は、20年度は長期間の企画展を開催したことにより収入が多かったのに対して、21年度は例年ペースの展示だったこともあり、前年度より減少しました。</li> </ul> <p>バランスシートの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産は約42億円で、そのうち建物・設備が約27億円と、全体の64%を占めています。</li> <li>・県民1人あたりのコスト負担は、1.4%増となりました。</li> </ul>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>管理部門： 施設の維持管理、資料の保管と管理【H22予算額：約97百万円】</p> <p>事業部門： 調査研究事業…歴史・民俗・考古等の調査研究、資料の購入【H22予算額：約20百万円】 企画展開催事業…企画展の開催（4回程度）、展示資料入替【H22予算額：約14百万円】 教育普及事業…企画展のテーマに関連した展示説明会や講演会の開催【H22予算額：約2百万円】</p>
今後の課題	<p>福井の文化や歴史を紹介する企画を充実させるとともに、館蔵資料の紹介や話題性のある資料の公開を積極的に進めることが必要と考えています。</p>
今後の事業方針 取組み内容	<p>利用者のニーズを把握しながら、新しい魅力を創造し、親しみのある身近な博物館として入館者増を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展の内容充実や関連するイベントの開催、常設展示の定期的な入替</li> <li>・エントランスホールを活用した市町との連携事業、ミュージアムライブ、大型資料の展示</li> <li>・小中学生向け体験学習の取組み推進</li> <li>・学校、老人福祉施設等への訪問によるPR活動の強化</li> <li>・質の高い資料の収集と積極的な公開</li> </ul>

県民1人あたりのコスト負担の状況 (円)



人口100万人あたりの入館者数比較(H21) (人)

